

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
質問			1 ・このような意見交換会は、今回限りで終わる予定なのか。	・市民の皆さんとの意見交換は、5回で終わることにしており、今回の有識者との意見交換をして一応一区切りをさせていただく。 ・また、今までの市民や有識者の皆さんの意見を踏まえて、委員あるいは全議員など、議員の中で意見をまとめて議長に答申する予定である。
			2 ・定数削減の意見があった、あるいは増額の意見があったというところで、おさまっていて、具体的な数字まで挙げての議論には、まだ、なっていないのか。	・途中経過の中で、色々な数字は出てきているが、まだ決定でない。 ・市民の皆さんの意見や有識者の皆さんの意見を集約したものを、再度もう一回会派に持ち帰って議論する予定であるので、具体的な数字を、今ここで決定しているわけではない。
			3 ・市民と5会場で話し合いを行ってきたとあるが、市議を目指しやすい環境整備検討会の5項目に絞ってある表で、市民の方に説明しながら、議会改革の話がされたのか。 ・ここでは、市民と議会の距離を縮める、選挙の困難さを解決、女性的課題の解決、取り巻く環境の解決、女性特有の打破という形で、まとめられているが、こういう話はしていないのか。	・そのような区分けの話はなかった。
			4 ・市民の皆さんからどういう意見があったのか。	・今日は有識者の皆さんに、たくさんの色々な資料をあげたが、市民との意見交換会の中では、プロジェクターの内容を説明しただけで、アンケートも、未記入の方が多かったというのが実感である。
意見	全般	取組過程	1 ・若い人や女性が立候補しやすい環境をいかにつくるかという話は、何も上越市に限っての話ではなくて、地方都市によくありがちな姿であろうと推察できることから、上越市で何かアクションを起こすことも大切だが、この国のあり方のような部分に関係してくるのではないのかと感じる。	特になし
			2 ・上越市議会では若者や女性が議員を目指しやすい環境を整備するために議員定数及び報酬等を検討委員会を立ち上げ、となっているが、議員定数を下げて、報酬をその分、例えば上げたとして、若者や女性が本当に手を挙げるんですかという疑問が湧いてくる。 ・来年、選挙で、このことが来年の選挙とどう結びつくのか、わからないが、今の時期、この時期に決断する必要があるのか、組織を代表しているわけでもないし、個人で来ているが、大変重たいなと思う。 ・だから、若者や女性が本当に議員を目指す、目指されるというのは待遇とか将来の安心とかも絶対必要だと思うし、それも検討しなくてはいけないけれども、それにプラス、何かが必要なのかなということを感じている。	・報酬の部分で、中には、議員になる志を持って出たのだと、報酬をどうのこうので出たのではないという意見も、ぜひわかってもらいたいと思っている。 ・きょう皆さんからいろいろな意見をいただいた中で、最終的には、我々議会として判断しなければいけない。 ・定数については我々最終的には議場で採決になるが、報酬については、報酬審議会では我々の審議内容見て御判断なさるのと思っている。 ・定数については、我々は、きょうの皆さんの意見を聞いた中で、これを1つの結論にどういうふうに持っていかという部分になり、その後は議長が判断するのだろうと、両論になるかもしれないが、ぜひ、きょうは、いろいろな意見を聞いて、我々はこれから判断をしていくと思っている。
			3 ・議員報酬を上げるならば、議員定数を減らすでもして、パッケージにしないと説得力が生じないだろうということで、議員定数を下げるべきかどうかは別問題で、現状維持ということも場合によってはあり得るかもしれない。 ・そこは、どれくらい多様な候補者を得られるかという問題とも絡んでくるので、若手や女性がどうやったら立候補しやすくなるかというのは、もっと別の文脈で考えないといけないのではないのか。 ・例えば、負担をどれだけ減らすか、どれだけそれが当たり前で、日常を維持するもののありがたさというのは、なくなってみないとわからないところがあるので、維持に非常に貢献されている市議会の方のありがたさが見えにくいところもあると思う。 ・負担をできるだけ軽減していくと同時に、これだけ大事な支えになっているということを手前にPRする。 ・それから、例えば海外などでは、早朝に市議会開きます、つまり、会社勤めながらも議員でできるようなあり方というものもあり得るのか、あり得ないのかというような方向で検討していったほうが、若手が市議会のメンバーを目指す方向からすると、むしろ近道なのかなというふう考えた。	特になし

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
質問			<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員になりたいとか、目指そうという意欲が市民の中でなかなか出てこない。</li> <li>・自分の周りを見渡して、なかなか手を挙げないというのはどういうことか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度成長期やバブルを経験しておらず、物心ついて社会に出たときから経済というのが下がる、もしくは、ほぼ横ばいの状況がずっと続いている中で、非常に安定志向が強いと思う。</li> <li>・また、なかなか世の中がよくなるもので、自分ひとり頑張ってもどうにもならないのかなという意見の方も多い。</li> <li>・ただ、そこも結婚して子供ができて、また子供を育てていくと、いろいろと意見が変わって、40代ぐらい近くになってくると、また政治に興味を持ってくる人がふえてくる。</li> <li>・若い方が圧倒的に政治に対する諦めと、関心はあるが、おもてに出てこない。</li> <li>・SNSとかそういったものも流行っているの、外に出さないで自分たちの中だけで完結している。</li> <li>・そういったところが大きな原因にあるのではないか。</li> <li>・残念なことに、ちょっとした諦めというものもあるかもしれない。</li> <li>・お金以外のところの阻害要因を見て言えば、そんなところも感じる。</li> </ul>
意見	なり手不足	原因	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補者がいないというのは、当選できるという保障がないが、若い人が当選できる保証があって立候補するなんてことは、まず考えられない。</li> <li>・したがって、立候補をして当選をして、報酬をもらって生活ができるというところまで考え抜いて立候補をする人というのは恐らくいないのではないかと考えている。</li> <li>・そうすると議員になって何が自分にとってプラスなのか、あるいは周辺なり地域の人たちの評価というのが、どういうふうに得られるのかというところまで考え抜かないと恐らく立候補をする決意というのは出てこないと思う。</li> <li>・だから単に立候補をしたくないのか、できないのか、できないのの中には、できる環境があるのかないのか。</li> <li>・個人が立候補したいと決意しても、家族、町内、職場、周辺、その人たちの賛同につながって行くのかどうかというのは、本人の判断の中では私はできないような気がする。</li> <li>・ですから、そういう環境をどうつくり上げていくかというのも一つ課題としてあるのではないかと考える。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬が少ないから議員活動をやめるとか、報酬が高いからやるとかということではなくて、自分にとって議員活動とは何だろうということが若い人たちが実感として湧かないことが課題であると思う。</li> <li>・その裏を返すと、厳しいようだが、今いる議員の活動が見えないと、また、議員の活動が見えてくれば、それを自分に当てはめようと思えば、立候補を判断できると思う。</li> <li>・したがって、当然生活をしていくわけだから、報酬の中で議員活動として割かなければいけない部分と、生活をしていかなければいけない部分が当然あるので、であれば44万円ですり足りるわけがない。年間30万の政務活動費ですり足りるわけがない。</li> <li>・だから、その辺が、自分の議員活動というのは、目に見えていく活動とは何だろうということが実感としてなければ、立候補しようという気にはならないのではないかと考える。</li> </ul>	<p>特になし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員のリスクや身分の不安定さは1つの阻害要因であることは間違いないから、ここも解決するというのが一つ大事な問題である。</li> <li>・また、魅力について、市民との意見交換会すると、一番多い意見は、議員の活動が見えないということ。</li> <li>・それから、新聞でも、あるいは報道でも騒がれているが、例えば政務活動費の問題だとか、あるいは議員の不祥事だとか、そういう問題もかなりクローズアップされている。</li> <li>・そうすると、議員に対する魅力あるいは信頼度というのが非常に薄れてきている。</li> <li>・自分たちの活動が市民に理解されるような見える化や、本来の議会改革、議員、議会が魅力を持って見られるような、同時進行でやっている。</li> <li>・したがって、片方だけの議論だと、それは議員の個人的な経済的な問題、あるいは損得だけの問題かと思われるが、もう一つの議会改革、議員の活動、議会の活動そのものを皆さんから魅力あるものとして見ていただくという、そういう二本立てで活動しており、誤解されてはだめだと思っている。</li> </ul>
質問	報酬	立候補率との関係	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員報酬が相対的に高くなると、例えば、立候補率が上がるというような、何らかの知見が今まであるのか、ないのか。</li> <li>・つまり、ほかの要因の可能性も当然、検討しなければいけない。</li> <li>・議員報酬と立候補率の関係について、上越市の中での話に限らないが、何らかの既存の検討状況みたいなどころはあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議を目指しやすい環境整備検討会で、報酬と立候補率の関係について、具体的に検討したということはない。</li> </ul>

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
質問		手当	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議長と副議長は少し高い給料になっているが、その他の方は全部一律なのか。</li> <li>・常任委員会の委員長や副委員長の方には、何かついたらほうがいいのではないかという気がするが、いろいろなリーダーシップ取っていただいている人からやっぱり頑張ってもらわないと、会もまとまらないと思うが、ほかのところはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は、町村会議員のときは、委員長手当が常任委員会で大体5,000円くらいだった。</li> <li>・ただ、視察のときの食事代などとして消化されて、頑張ってもらうためにということにはならなかった。</li> <li>・現状の委員長は割と仕事も多いので、委員長手当があってもいいのではないかというような意見は、私的な意見として出ており、検討できると思う。</li> </ul>
意見	報酬	増額	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うちの職員に議員の給料の額を見せた段階の感覚として、失礼だけれども、こんなぐらいなんですかというような意見が出た。</li> <li>・若者やある程度の年齢になったとしても、それに釣り合った報酬がなければいけないということは、民間企業では当たり前のことであって、その辺の観念が市民の方々に届いていないというか、理解されていないというのが一番の現実じゃないかと思う。</li> <li>・このような金額です、とお話になってもいいのではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字がひとり歩きすることや、年配議員と若い議員とでは事情が随分違うと思ったので、具体的な数字は、報酬については出さなかった。</li> <li>・議員だとお金を貸してくれないとか、実際に若い議員たちが経験したことを説明した場面もあった。</li> </ul>
		増額	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上場企業など大体平均年収で650万円だが、それは新入社員がいて定年する人までの平均である。</li> <li>・ただし、議員は、多方面のいろいろな人との関わりを持ちながら、いろいろな判断や調整、意思決定をしたり、いろいろなことをやられているということになると、企業でいうと管理職に近い。</li> <li>・地域のリーダーシップをとられ、管理職に近いような人で、実際には中堅企業ぐらいだと管理職、部長とか課長部長マネージャー部門になると、おそらく800万円とか1,000万円ぐらいもらっており、大手企業になるとさらにもらっていると思う。</li> <li>・したがって、子育て世代や50歳くらいになって非常にお金がかかる時期になると、いろいろな市の例が載っていて平均年収あるが、820万円ぐらいは、もらってもいいのではないかと思う。</li> <li>・そうやって議員の方が、自分で生計を立てられて、しっかりとした仕事をすれば、そういう人を応援したいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な声を聞いていただいて、皆さん方がそれについて、どう思うかということも大きな参考になると思う。</li> </ul>
		取組過程	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬はもっと上げていただいて、余裕のある本当に身の入った政治活動をしていただくべきだと個人的には思っているが、市民の賛同、理解もどのように得られるかというような部分がある。</li> <li>・また、例えば北欧では、無報酬で議員をやられるが、その無報酬の議員の選挙戦にも何十倍何ていう方が立候補されるなどの国もあるので、やはり国のあり方のような部分が議論されないと、なかなか難しいのではないかという気がする。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の議論の流れで、あらかた報酬を上げていいのではないかという流れには、なっていなかったと理解している。</li> <li>・議員の方の苦境は、理解はするが、ただこういう状況があるという説明が果たして市民の立場から説得できたかという、別に立候補しなければいいと言われてしまう。</li> <li>・いろいろな席に出なければいけない、議員の先生方の場合は規模がもっと大きいような目線を向けられているので、日々大変なところもあるのだろうなということは理解はする一方で、先ほどのような説明であると、一般的な市民の理解というものは極めて厳しいと考えておいたほうが多分よいだろうと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し広がった話であるが、若手議員の説明では、社会保障的な部分がなく、それで4年に1度の選挙がある。また、子育て中は、今の報酬では非常に厳しいという、それが多分若い議員が抱えている実感だと思っている。</li> <li>・事実上、いろいろなお付き合いが、冠婚葬祭初め宴席も随分と多いということで、その辺が一般のサラリーマンの方とは大きく違うところだろうと思う。</li> <li>・議員として若い人たちは頑張れば頑張るほどそういうものが大変なのかなというのが今聞いた実感であるので、ぜひ、その辺も御理解いただければと思っている。</li> </ul> <p>特になし</p>

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
意見	報酬	取組過程	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会議所の経営者で女性の方も非常に多く、経済的にもシビアな考え方をされる方も非常に多い。</li> <li>・現実には給料を払っている立ち位置の方たちなので、多分出る答えは、報酬を上げて結構だが、理由、説明責任みたいなのを非常に求められると思う。</li> </ul>	特になし
		取組過程	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬が高いか少ないか、わからなかった。</li> <li>・40万円だ50万円だと言っても、幾らになっても一般の人たちはいっぱいもらっているというだけでしかないと思う。</li> <li>・皆さんに知っていただくためには、議員の方たちがこんなに一生懸命やってくださるということをもう少し浸透させていただいて、わかるようにしていただければいいんじゃないかなと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民理解が大前提だというのは、皆さん共通なのではないか。</li> <li>・きちんと理解を得る、納得してもらえるような形で、説明責任といった努力が必要であるということでないか。</li> </ul>
		不安定という課題	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育ローンは、在学中は返済を据え置いて、その後返済するというパターンが多く、大体10年ぐらいの期間の借入れになり、身分が10年間保証されるかどうかということが問題であって、年収700万円そのものが問題ということではないという感じがする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年というその身分の不安定さというところにも大きく起因していると思う。</li> <li>・特に議員の身分の不安定さ、落ちればそれで終わり、年金もないということもある。</li> <li>・旧村議員当時あるいは市議員になってからも、つい最近までは議員年金があったが、国会で議員の年金がいろいろ国民の批判を受ける中で、議員年金はなくなるということで、ますます不安定になってしまった。</li> </ul>
	その他	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実は町内会役員もなり手がいない。</li> <li>・なぜかと考えると、人の世話をしたくないというのが一番多い。</li> <li>・人の世話というのは何なのかと考えていくと、いわゆる自分が行った行動に対しての評価やその実感として感じられない。</li> <li>・要は、文句は言うけども評価がない。</li> <li>・例えば、議員報酬は高額過ぎるというのは、どういう人たちが何をもって高額だと言っているのかということを検証すべきだろうと思っている。</li> </ul>	特になし	
	定数・報酬	定数減報酬増	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的に議論を整理すると、市民の方々の理解が得られるかどうか。</li> <li>・上越市のホームページに議員定数の増減に関する従来の検討に関する検討資料が載っており、市民の自由意見などを見ると、高額だという言葉が並んでいる。</li> <li>・例えば、総額に着目した場合に、定数削減の問題がリンクして来ざるを得ない。</li> <li>・上越市の財政状況が急速に改善すれば別だが、現状だと、もらわな過ぎでも、もらい過ぎでもないのでは、議員総数を削減した上で、議員報酬を若干増やすという方向にならざるを得ないのではないか。</li> <li>・また、選挙区をブロック制のような形を導入した上で、人口が減っていている地域からも代表者が選ばれるようなパッケージで提案をしないと、なり手がいないので報酬を上げるということだけでは、仮に合理性があったとしても市民の方々の理解は、かなり厳しいのではないかなと思う。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化は日本全国に進んでいて、国も地方も、産業も消費も、市場規模が縮まってくるのは間違いない。</li> <li>・そうすると上越市もおそらく収入も少なくなっていくことになるので、報酬は総額を減らしていく方向になってくると思う。</li> <li>・1人当たりの議員の報酬は上げる、そうすると定数を削減するしかないと思う。</li> <li>・現状、おそらく4、5人ぐらい減らせれば、年収が820万円とかになるんだと思うので、そういう方向で考えて、一人一人がほんとにしっかりと仕事を、少数精鋭でやっていただくという方向のほうがいいと思う。</li> </ul>	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民理解という点から考えると、やはり定数のほうにも及んで行くというような、上越市の財政状況からの考えですね。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
意見	定数・報酬	定数減 報酬増	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常任委員会が4つあり、8人ずついる。合計32人。</li> <li>・それを7人にして、28人でいいのではないかと、4人減らしたらどうか。</li> <li>・4人減らした分を割り返して、報酬を人口規模から行くと5万円くらいふやしてもいいのではないかと思う。</li> <li>・常任委員会は4つあっても、4つつくらなくても、2つでもいいし、3つでもいい。</li> <li>・議員の皆さん方が常任委員会に1つではなくて、2つ所属してもできるというように法的になっていると思うが、あまりそこにこだわる必要もないが、4人減らして28人というところはどうかと思っている。</li> <li>・そして、その分は報酬を上げさせてもらいますということで市民に訴えたら、理解は得られないかと思っている。</li> </ul>	特になし
			<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の代表に目の前の下水を直してもらおうとか、そのための議員として必要なんだという考え方とか、議員皆さんの活動を捉えている方は年齢によってだいぶ差が出てきているのではないかなと思う。</li> <li>・現実にはそういうことが、どんどん今はなくなってきており、年齢とともに、時代とともに議員に対する考え方、捉え方も変わってきた。</li> <li>・定数を減らしたので、おのずと頑張っていたかかげなければならないから、報酬を増やしたほうがいいという話の仕方が、多分、一番、皆さん納得が行くのかなと思っている。</li> <li>・1つの上越市ということで、これから先、前を向いて、みんな100年、200年の経緯があるので、1つになって進んでいくためには、それ相応の正当なる報酬もいただいたり、その分頑張っていたかということ、市民の方に納得していただくのが一番かなとは思っている。</li> </ul>	特になし
			<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、大体、人口が1%ぐらい減っている。</li> <li>・毎年2,000人くらい減っているの、5年過ぎれば1万人減る。</li> <li>・何年かごとの見直しというのは必然的な形になって来ざるを得ないし、そういう形の中で減った部分がある程度、残された方にもっと頑張っていたかということ形であるならば、納得しやすい1つの、いわゆる人口減との関係づけといえますか、納得するのではないかなという気がする。</li> </ul>	特になし
	政務活動費	増額	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上越市は広いので、政務活動費に関しては、現状でほんとに賅い切れないということであれば、増額等の検討は、より進めやすいのではないかと思った。</li> <li>・なかなか難しいところもあるかもしれないが、実際これだけ広くて、例えば大島区から木田庁舎に来るだけで、これだけお金がかかるということが現実にあると思う。</li> </ul>	特になし
	報酬・政務活動費	報酬増 政務活動費減	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政務活動費は会派と個人になっている。</li> <li>・会派のものを半分くらい削って、報酬の財源にしたらどうかと思っている。</li> <li>・というのは、会派でも視察に出る、常任委員会でも視察に出る、特別委員会でも視察に出る、ほとんど議会の合間は視察で埋まってしまう。</li> <li>・そういう状態であれば、会派の分を、30万円を半分くらい削ってもいいのではないかと思うが、検討してほしい。</li> </ul>	・検討の中では、少し個人のほうが不足なので、割合を変えるというような話し合いにはなっているが、委員の意見も検討させていただければと思う。
政務活動費	その他	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬の場合は、そんなに少ないわけではないだろうという数字になっているが、ここに政務活動費をはめたときにどうなのか。</li> <li>・同規模で財政状況が等しい自治体と比べたときにどうなのかというところで1つ議論があるかなと思った。</li> </ul>	特になし	
議員年金	その他	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的には、何で議員年金がなくなったのかと思う。</li> </ul>	特になし	

質問・意見	区分	内容	意見等	回答等
質問	定数	<p>その他</p>	<p>1 ・地方制度調査会で、議員のなり手がいないということで、集中専門型とあるいは多数参画型と2種類を出したが、うまくないということで取り消しになり、また新たな仕組みを考えることとなったが、何か情報を得ているか。</p>	<p>・議論は全然していない。</p>
意見	定数	<p>ブロック制</p>	<p>1 ・例えば、定数を28人にすると、高田とか春日山とか市街地とか、いわゆる旧上越地域の出身の人がかなり当選しやすくなり、ローカルな地域の方は苦しいだろうと理屈では推測できるが、委員の方の中で例えばちょっとローカルな地域の御出身の方の実感というか感覚を話してほしい。</p> <p>1 ・13区の合併をするときに、人口の少ないところは出られないのではないかとあって、特例をつくって、少なくとも1人は出せることで特例を2回にした。                  ・合併協議では非常に問題になり、合併前上越市はそれは1回だ、13区のほうは2回だということで非常に問題になったが、最終的には2回で落ち着いて、特例を2回やった。                  ・全市一区になったときに果たして出られるかと思ったが、小さいところはそれなりよく、13区からまち場に移住してきている人も多く、そこに頼みに行くと、かなり票が取れるから、心配はないと思う。                  ・実際に、人口2,700人の区ですが、2人の議員が出ているので、心配ないと思う。</p> <p>2 ・選挙を考えたときには、人口の多いところに関する政策というものに人間である以上、なかなか行きがちであり、そういった格差と一極集中のローカル版みたいなものが起きるのか、起きないのか、選挙という制度によって議員を選ばれざるを得ない以上、その懸念はある。                  ・そのときに、ブロック制のあり方も、例えば、ローカルのところ個々に分て、地域代表性が強くなり過ぎとすれば、ゆるやかに何か分けをして、定数を張りつけることができるのかというような検討も関連する。                  ・ワン上越というものが理想ではあるが、定数がこれ以上減っていったときに、理想と地域格差の問題というものの衝突ということも正面から視野に入れたいといけないのではないと思う。</p>	<p>・実は、私が出た経緯は、区で1人出すという特例のときで、大ベテランの議員がいた中で、私はあまり争いを好むほうではなく、その後、全市になったので、全市の代表だという思いで、一大決心をして立候補した。                  ・そうすると、地元のためにも頑張ろうと思っていたけれども、全市を見て活動していかなければいけないということを、すごく今実感しており、旧上越市の同級生もいろんな団体の仲間からも、すごく応援していただいて、チャンスをいただいて当選させてもらった。                  ・ブロック制に、もし戻った場合は、多分、また、その地区での争いになった場合は、遠慮して出ないかもしれないと思っている。</p> <p>・高田地区から今、11人の議員が出ており、直江津からは5人で、合計16名で人口が13万3,000人。                  ・13区は、人口が6万で、16の方が出ている。                  ・全市一体の中での議員代表というのが今、多くの議員が考えていることではないかと思っている。</p> <p>特になし</p>